

在日朝鮮学校は、終戦直後の一九四五年から、在日コリアン（韓国・朝鮮籍）三世・四世の母語が完全に日本語にシフトしたといえる現在まで、朝鮮語と日本語のバイリンガル教育をおこなってきた。故地である朝鮮半島の分断や、日本の政治情勢など、さまざまな周辺事情に影響を受けながらも半世紀以上にわたり、日本における移民にとつての最大の継承語教育機関として存在してきた。現在国内に点在する朝鮮学校の数は幼稚園から小・中・高、大学校まで合わせて約七〇校。日本の教育環境にあわせて「六・三・三・四」制を基本とする教育体系をもつ。朝鮮半島にルーツをもつ在日コリアンの子どもたちに対し、日本の学校教育に相当する教科教育と民族意識を育むための教育を、朝鮮語だけでおこなう。このように、学習の対象となる言語にひたきつた状態で、さまざまな教科を学ぶ方式をイマージョン方式とよぶ。

入学直後からの朝鮮語教育

京都朝鮮第三初級学校は、観光地として有名な金閣寺のすぐそばにある。保護者や日本人の支援者からは「チェサミ」という愛称で親しまれている。一九六七年に創立された学校は敷地内に付属の幼稚園が併設され、現在では園児を含め一年生から六年生まで約五〇名が学ぶ。三階建てのコンクリートの校舎には、教室の他、図書室を兼ねた多目的室、音楽室などもある。

入学したばかりの一年生児童を受けもつのは、ベテランの趙馭子先生。朝鮮大学校を卒業した在日本コリアン二世で朝・日バイリンガルである。一日ジョン方式ならではといえるであろう。

ジョン方式ならではといえるであろう。

継承語教育を促す工夫

児童は授業以外のさまざまなシーンでも朝鮮語を学んでゆく。毎日のあいさつや当番などで交わされる決まった会話は、それ自体が彼らにとつて言語習得の機会となっている。また、作文発表会や早口ことば大会などで朝鮮語を流暢に操る上級生を見て憧れの気持ちを抱いたり、朝鮮語のみで一日過ごす「ウリマルー〇〇パーセント運動」で模範生になることなどは、朝鮮語学習への動機づけとなっているといえよう。文化祭の準備などで民族音楽や舞踊などに触れることも、言語とそれ以外の面から民族的アイデンティティを育成するのによい機会となっている。

とはいえ、日本で生まれ育つ朝鮮人児童生徒にとつて、朝鮮学校は民族のことばを習得するだけの場ではない。彼らが朝鮮人として異国で生きていくために欠かせないアイデンティティを育むために必要な、かけがえのない場所でもあることは幾度となく先生たちのことばから感じることができた。

地域住民との交流

朝鮮学校は決して閉ざされた空間ではない。チェサミでは近隣の公立小学校と年間を通して交流会をもっており、児童らが互いに訪問しあつてスポーツ大会などを行っている。チェサミのバザーでは、近くの鷹峯小学校の「おやじの会」メンバーが焼くチヂミが名物になっている。また、大学生を中心としたさまざまな団体から

多文化を
ささえる
人びと

世代を越えて、民族のことばを 京都朝鮮第三初級学校の朝鮮語教育

「うん、わかる！ ソンセンニム（先生）のいうこと、全部わかる、余裕！」

そう笑顔で話す1年生の女の子の表情には、話せるという自信があふれていた。

3カ月前、京都朝鮮第三初級学校に入学してきたばかりのころの彼女はまったく朝鮮語がわからなかった。

在日コリアン4世の彼女に、習い始めたばかりの朝鮮語を「わかる」と思わせる朝鮮学校とはいったいどのようなところなのか。

柳 美佐

京都大学大学院博士後期課程

年生の授業は月曜から土曜日まで毎日四時間あるが、一週間の時間割では朝鮮語が九時間、日本語が四時間、英語が一時間の合計一四時間あり、じつに週間総授業数の五八パーセント以上を言語教育が占めることになる。これだけを見て朝鮮学校が、児童の基礎言語能力育成に力を入れていることは明らかである。

朝鮮学校の小学校初期段階における第二言語（朝鮮語）教授法の特徴は、児童の日常に即した教科書を用いて実用的な口語表現を多く教えることにある。入学直後の五週間は文字指導がない。そのあいは学校におけるさまざまな状況に応じた表現や必要単語などを会話形式でひたすら練習させ、児童が朝鮮語でスムーズに学校生活に慣れていけるような指導がおこなわれる。その後には始まる文字指導ではカラフルな絵カードの使用や、朝鮮の文字を模した体操を組み入れるなど、児童が無理なく楽しく学習できるように工夫がなされている。また必要に応じて児童の母語である日本語の助けを借りて教科内容の理解を優先し、同時に朝鮮語の文法にも意識を向けるような指導法が用いられる。

教師は休み時間の会話にも注意をはらい適切なフィードバックを与えるなどあらゆる場面で言語学習の機会として活用している。このようにして一年生児童は、入学して一年以内に日本語と英語以外のすべての授業で教師の朝鮮語の指示をほぼ一〇〇パーセント理解することができるようになり、あいさつなど校内での朝鮮語の簡単な日常会話を習得する。この驚異的な習得の早さはイマージョン方式ならではである。

同校の姜秀香校長は語る。「多くの日本人のびとに公開授業や運動会で学校を訪ねてきてほしい。わたしたちの民族教育について知ってほしい。朝鮮学校はいつでもその門を開けています」。

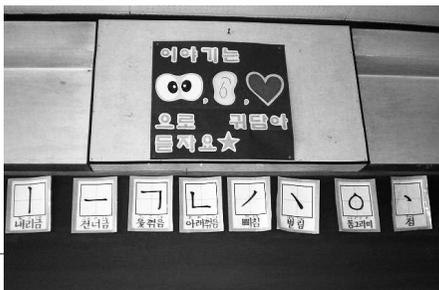
文化祭で民族衣装を着て太鼓をたたく幼稚班の園児たち



初級部一年生の国語（朝鮮語）のテキスト（文字指導前）



初級部一年生の教室に掲げられた、はじめて学ぶ朝鮮文字のお手本



鷹峯小学校、只楽（らくし）小学校、チェサミで毎年おこなっている3校リーグのサッカーで優勝したよ！